



このコーナーでは、昨年8月に募集した「家庭で実践できるごみ減量アイデアコンテスト」で入賞した作品を紹介しします。今回は審査員特別賞の2作品を紹介しします。ごみ減量推進課 ☎(866)2943

審査員特別賞

『和服などの布地を再利用』

アイデア 小林喜美子さん(将軍野)

着なくなった衣服を布地として再利用し、衣類やバッグ、敷物などに作り替えるアイデアです。作品としてリサイクルできない布類は、正方形にカットして食器汚れの拭き取りに利用するなど、再利用を徹底しています。スゴイ！



着物を再利用して作ったベスト



フリースやトレーナーを再利用して作ったルームシューズ



風呂敷が買い物袋に変身！

「使わない風呂敷は買い物袋(写真)に。折り畳んでバッグに入れておけるので便利です。裁縫が好きなので、楽しんで作っています」(小林さん)



ミミズは働き者ですよ

「ミミズはスイカの皮など水分の多いごみを好んで食べているようです。ごみを燃やすエネルギーの節約になりますね」(齋藤さん)



ミミズハウスです

審査員特別賞

『ミミズを利用した生ごみ処理』

アイデア 齋藤政義さん(御所野)

ミミズを利用した生ごみ処理のアイデアです。水分を多く含んだ生ごみの量を減らすため、重ねたプラスチックケースで“ミミズハウス”を作り、そこに生ごみを入れて食べてもらいます。夏場の方がミミズの“仕事”もはかどるようです。フンは畑のたい肥に利用しています。一石二鳥ですね！



エコちゃんの環境貯金箱作戦 中間報告

1月の家庭ごみなどの量は、基準年度(平成14年度)の1月と比べて886ト減り、102万3千円貯金できました。現在の貯金総額は1,395万3千円です。

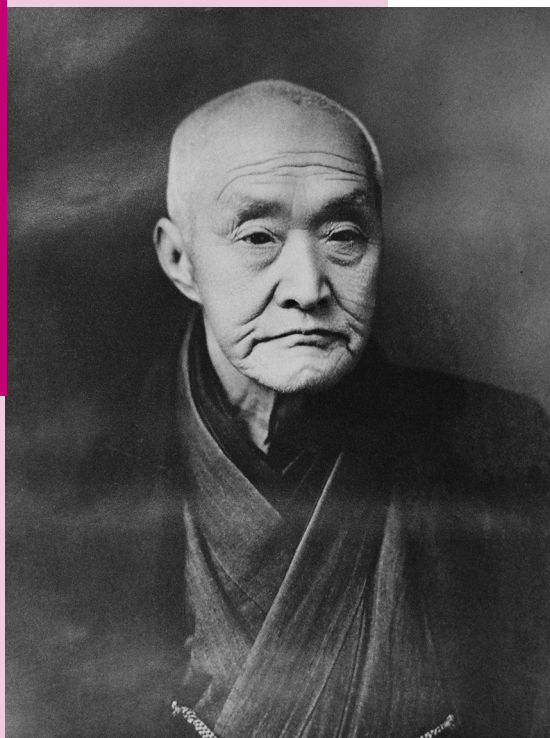
引っ越しのごみ処理は適切に

就職や転勤などにより引っ越しをする場合は、あらかじめ「資源化物」「家庭ごみ」などの収集日を確認しておきましょう。粗大ごみ回収(有料)は、粗大ごみ専用電話 ☎(839)2002(平日午前9時～午後4時)へ早めに連絡してください。

ごみが一度に大量に出る場合は、市の許可を受けた業者に回収を依頼するか、河辺豊成の総合環境センター ☎(839)4816へ連絡し、自分で搬入してください。

問い合わせ ごみ減量推進課 ☎(866)2943





生涯を農業に捧げる

森川源三郎は、1845(弘化2)年、河辺郡新屋町百三段新屋字黄金谷(現在の新屋表町)に秋田藩士の長男として生まれました。武士として文武の修行に励みながらも、若いころから農業を志していたようです。

時代が明治となり、24歳で戊辰戦争に出兵。35歳の時に秋田県植物自由試験場(平官半民の農業研究機関)担当人を命ぜられ、以降、大豆、麦類など農

新屋が生んだ偉大な農業指導者 森川源三郎

石川理紀之助、齋藤宇一郎とともに秋田県の「農業三大人」と称された森川源三郎。質素で勤勉、そして農民の生活向上のため、ひたすら実直で利他的に明治・大正期を生き抜いた郷土の偉人です。

作物の品種改良や栽培方法の工夫・研究を熱心に行い、その成果を惜しみなく人々に広めました。また、疲弊しているにもかかわらず、生活ぶりがせいたくになっていく農村の状況を憂え、貯金の大切さを訴えます。その行動は、各地に郵便貯金組合、稲作講などが創設されるきっかけになりました。

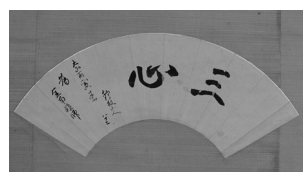
「天下に廃物なし」の思想

第一級の農業指導者としてさまざまな活動を行い、県内外の農業発展に尽

力した源三郎。晩年は上北手古野二見山に「余楽庵」を建てて住み、山居生活を送りました。

余楽庵での生活は非常に質素なものでした。農具、生活道具などは修理して長く使い、廃物を利用して自作の道具を作るなど、「天下に廃物なし」と唱えました。エコやリサイクルの大切さを伝えるこの言葉は、現代に生きる私たちにとても、心に響きます。

1926(大正15)年、82歳で亡くなる際、遺訓として「三心」という言葉を遺しました。三心は「発心」「決心」「相続(継続)心」の三つ。「物事を思い立って行おうと決めることも大事だが、それ以上に続けていくことが大切である」。源三郎の人生そのものを表す言葉と言えます。



遺訓「三心」



晩年を過ごした余楽庵(現在は新屋日吉町に移築されています)

「秋田市歴史叢書3 森川源三郎史料」を刊行

森川源三郎の孫にあたる森川カツさんから寄贈された資料をもとに、森川源三郎の人となり、年譜、日記などを収録しています。

B5判、181ページ、定価千円。購入希望のかたは、文書法制課へご連絡ください。

森川源三郎資料展

5月に西部市民サービスセンターで資料展を開催します。森川源三郎が使用した眼鏡や作業着などのほか、石川理紀之助からの手紙などの資料を展示します。詳しい日程は、後日、広報あきたでお知らせします。



げたや鈴杖など、源三郎が愛用した品々のほか、日記、手紙などを展示する予定です。

問い合わせ

文書法制課歴史資料担当
☎(099)891-3